

# 家庭教育支援者が身に付けるべき 相談スキルを考える

常磐大学 人間科学部  
心理学科 教授 秋山邦久

# コミュニケーションとは

## 1. 内容と文脈（背景、関係性）

- ✓ 「いつ、どこで、誰と誰が、**何を**、どのように」  
伝えあっているか
- ✓ 内容は「**何を**」だけ

## 2. 文脈が合っていないと、「ことば」が届かない

## 3. 「どのように」 = **非言語的コミュニケーション**

# 上手なコミュニケーションとは

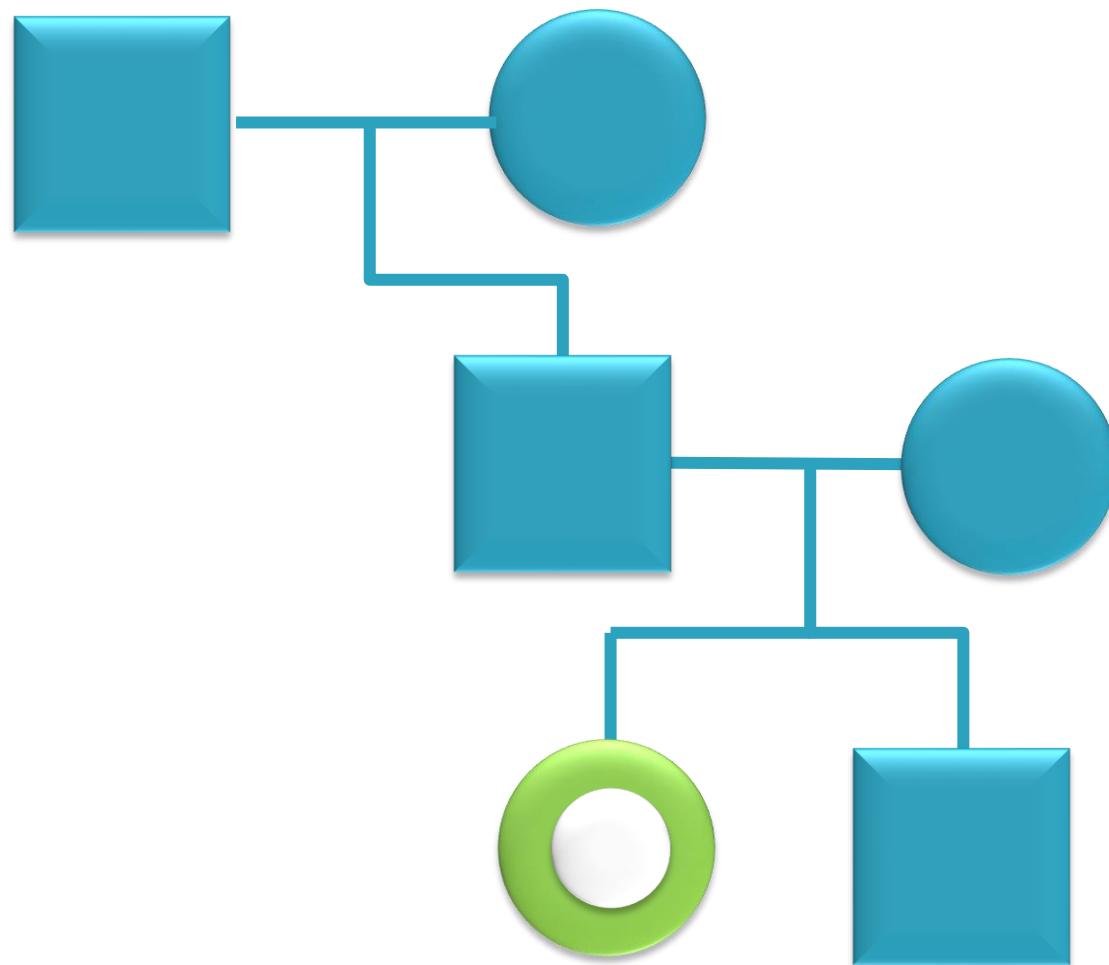
- ・話す内容よりも
- ・相手の立場と、その場の状況に合わせて（文脈）

**内容は「何を」だけ、その他がすべて文脈**

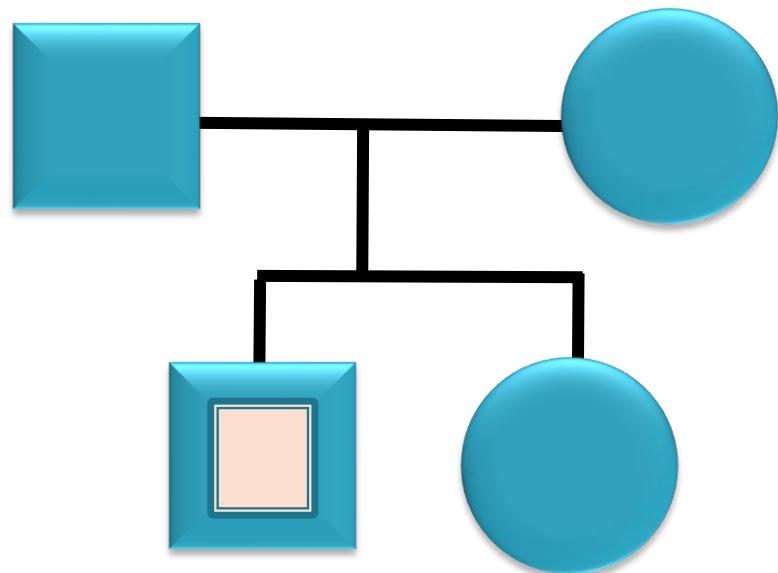
相手への影響度は、内容 7%、文脈 93%

- ・支援者が支援を受ける側の文脈に、まずは合わせる  
支援者が子どもに、親が子どもに、保健師が住民に  
教師が児童生徒に・・・

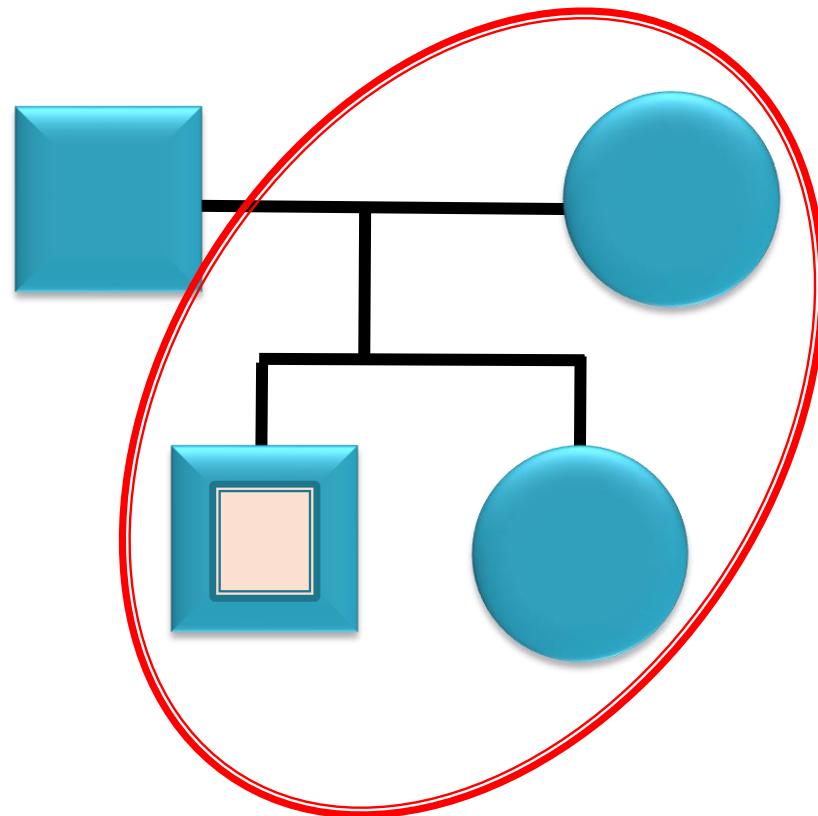
一緒に住んでいる人を描いてください



# 「家族」って何だろう？



# 「家族」って何だろう？



# 会話する場合の文脈合わせ

- ・親が子どもの文脈に ⇒ 逆が**虐待**
- ・保育士が子の文脈に ⇒ 逆が**不適切保育**
- ・上司が部下の文脈に ⇒ 逆が**パワハラ**
- ・教師が児童生徒（学生）の文脈に ⇒ 逆が**体罰**
- ・医療従事者が患者の文脈に ⇒ 逆が**不適切対応**
- ・相談員（職員）が住民の文脈に ⇒ 逆が**不適切支援**

# 先入観、思い込み・・・

- ・人を支援するときには
- ・当たり前だと思っていることを、  
一度（ ）に入れて
- ・相手のことは「何も分からない」の姿勢

## ☞ 感心しながら関心を持つ

なんでも感心（興味を持って）しながら  
関心を持つ（教えていただけますか）

# 観察と監視

- 支援するときは、監視よりも観察で
- 文脈を合わせて、ことばを届ける
- 発見するときは、監視も必要

# 呼び方だって、文脈合わせ

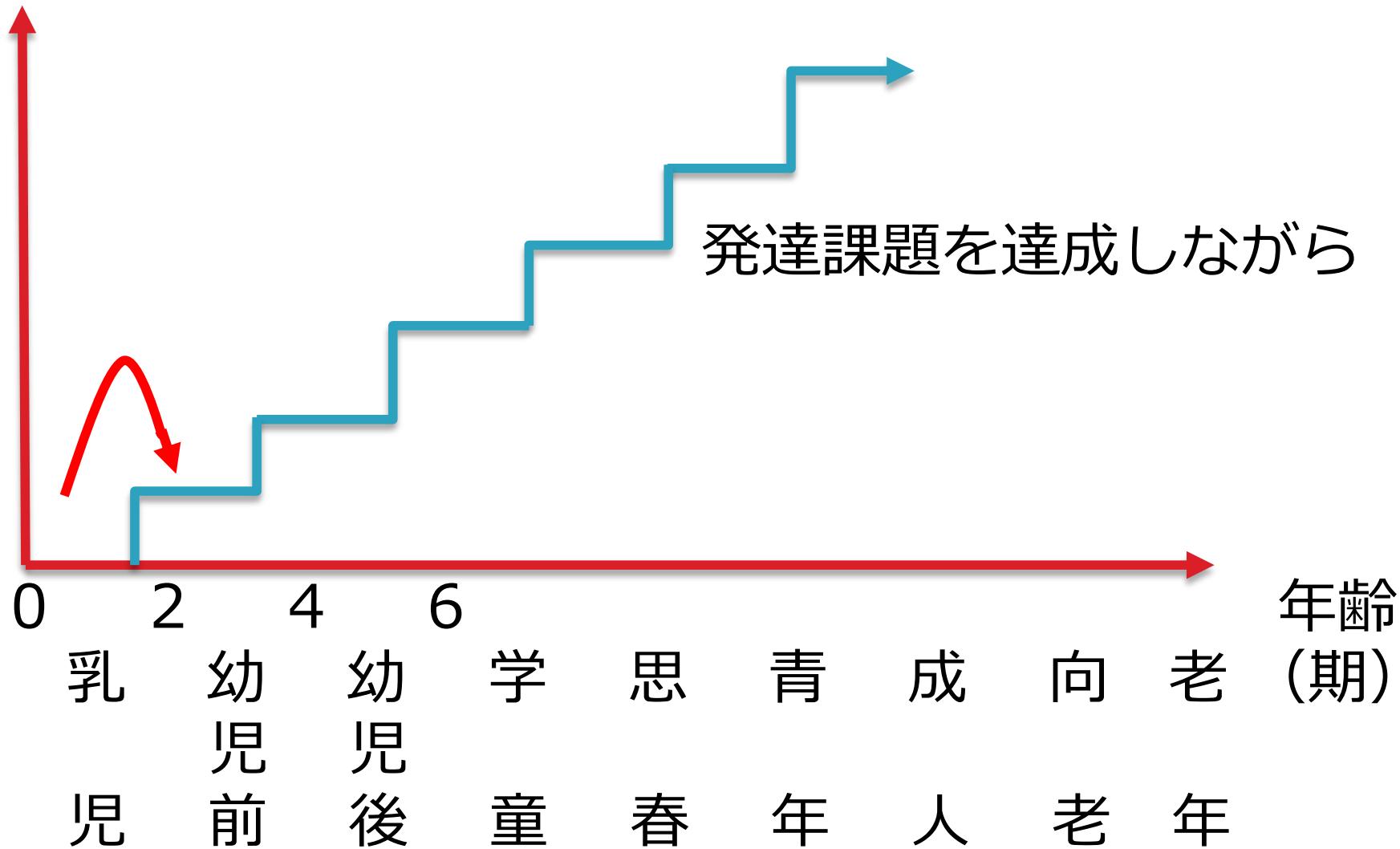
- ・お母さん、お父さんって呼んでいない？

# 呼び方を変えるだけで

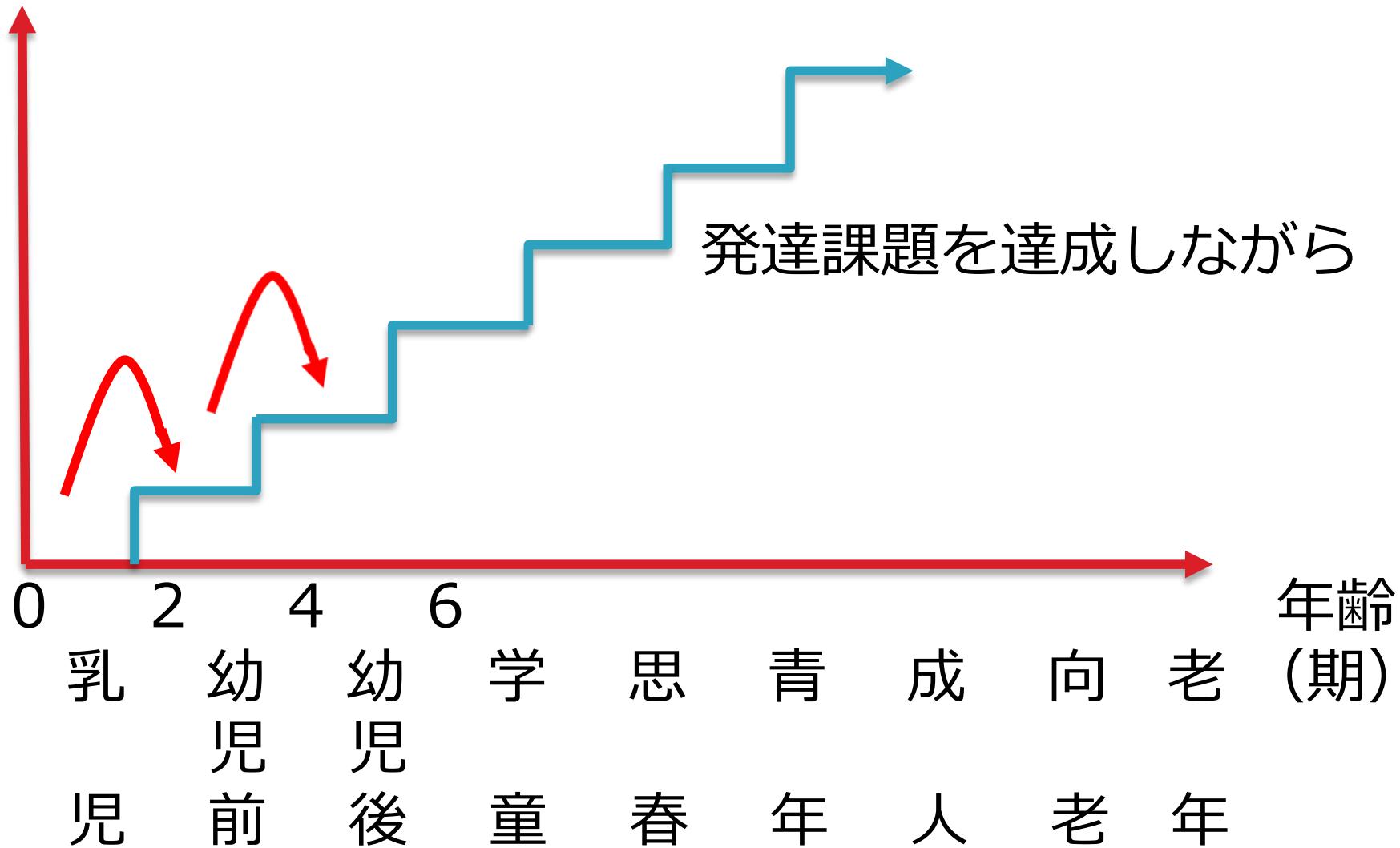


発達段階という子ども文脈を理解する

# 発達段階と発達課題の理解



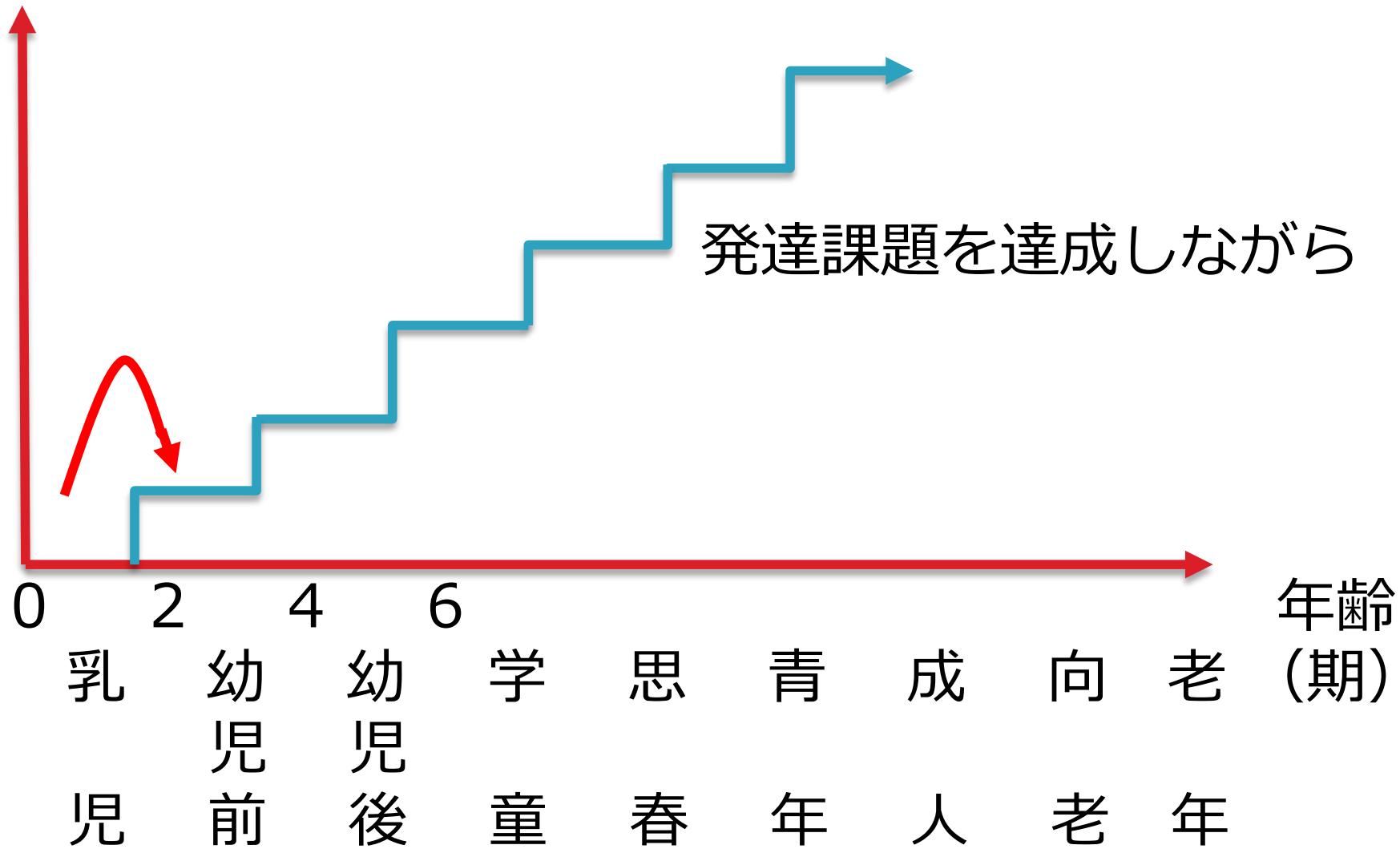
# 発達段階と発達課題の理解



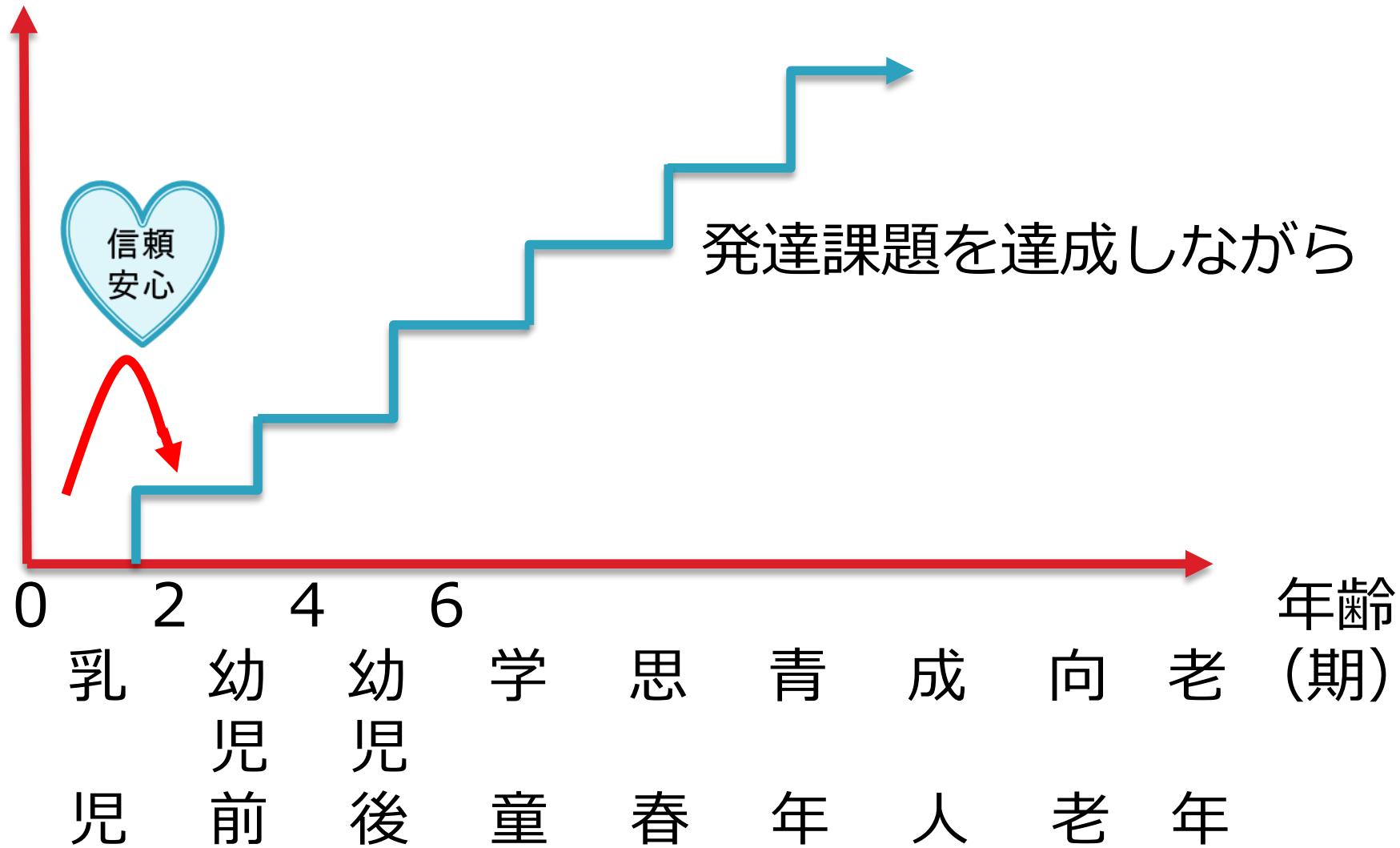
# さまざまな通過儀礼（イニシエーション）

- ・お七夜（名づけ）
- ・お食い初め
- ・お宮参り（初宮）
- ・立ち餅（誕生餅）
- ・七五三
- ・元服
- ・結婚式
- ・還暦
- ・喜寿

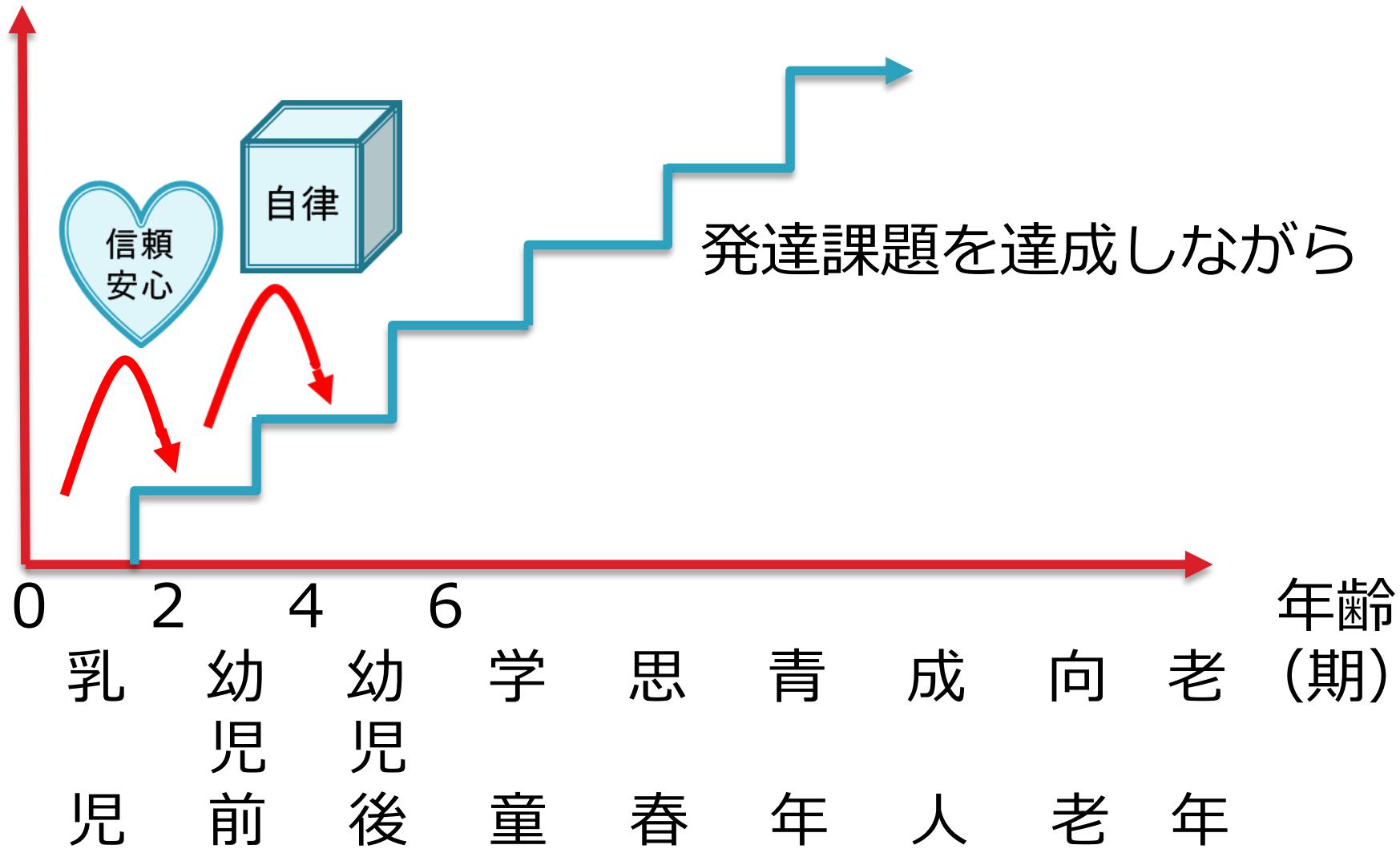
# 発達段階と発達課題の理解



# 発達段階と発達課題の理解

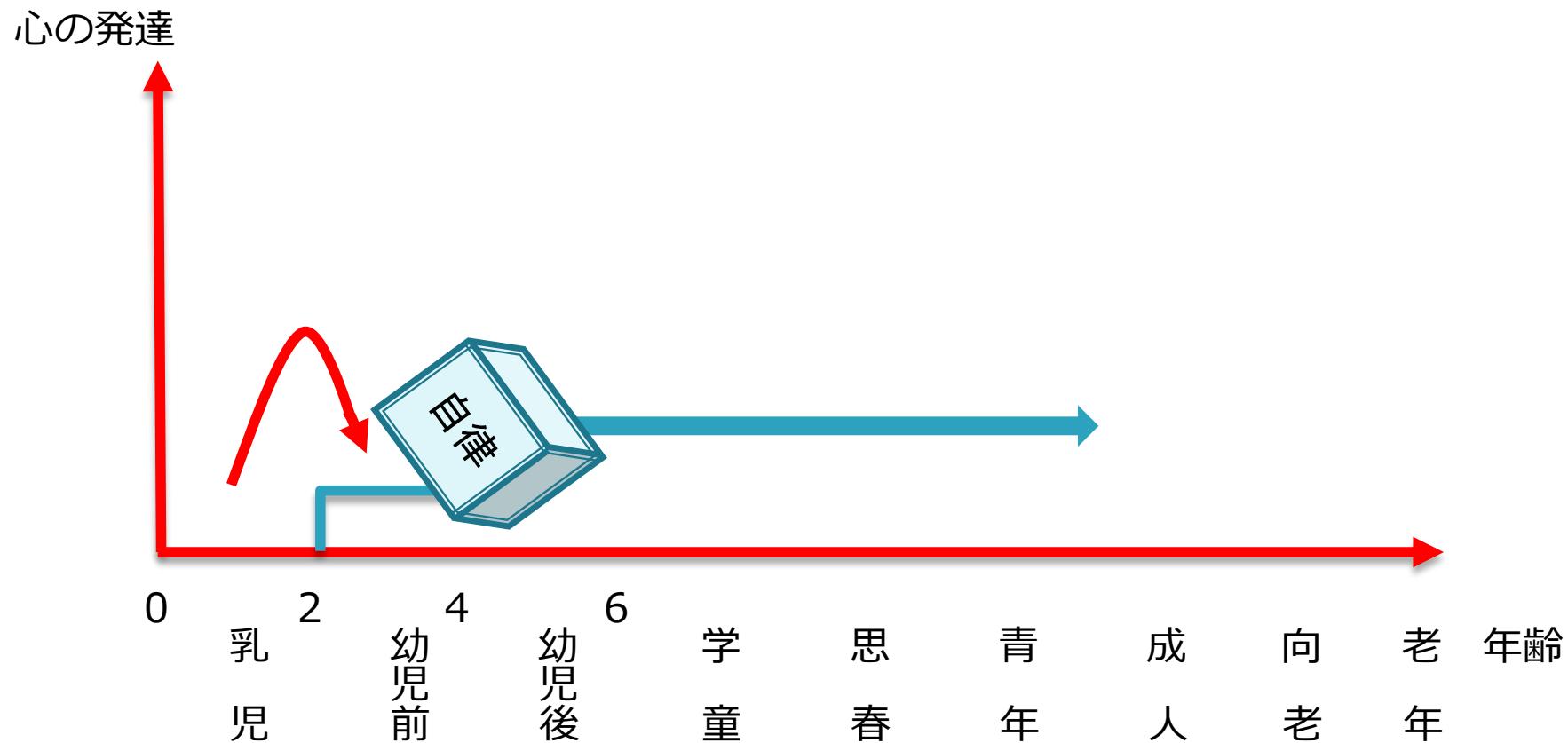


# 発達段階と発達課題の理解

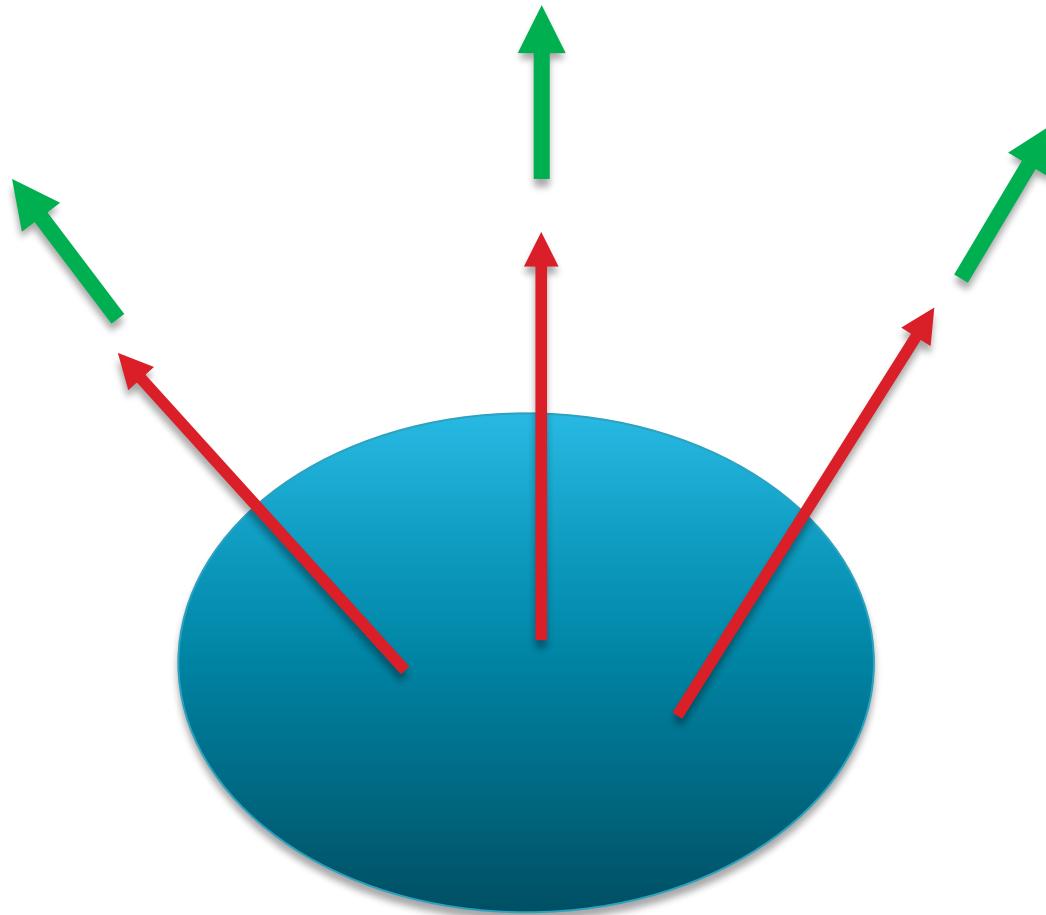


# 幼児期がクリアできない人

## 身体は大人、心は子ども



# 友藏現象（社会性未熟 I 型）



# 心が乳児期に留まった子も

心の発達



# 自我が育たない（社会性未熟Ⅱ型）

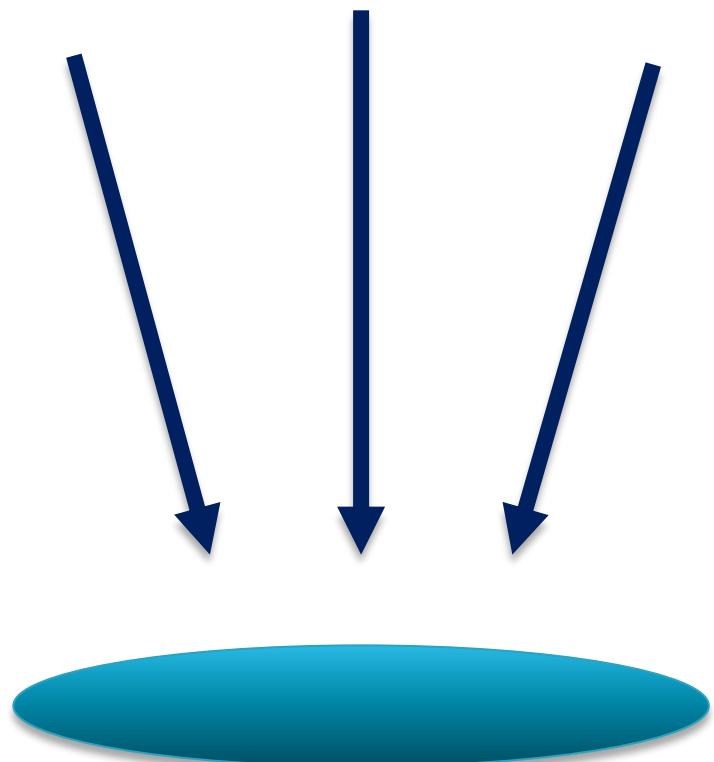


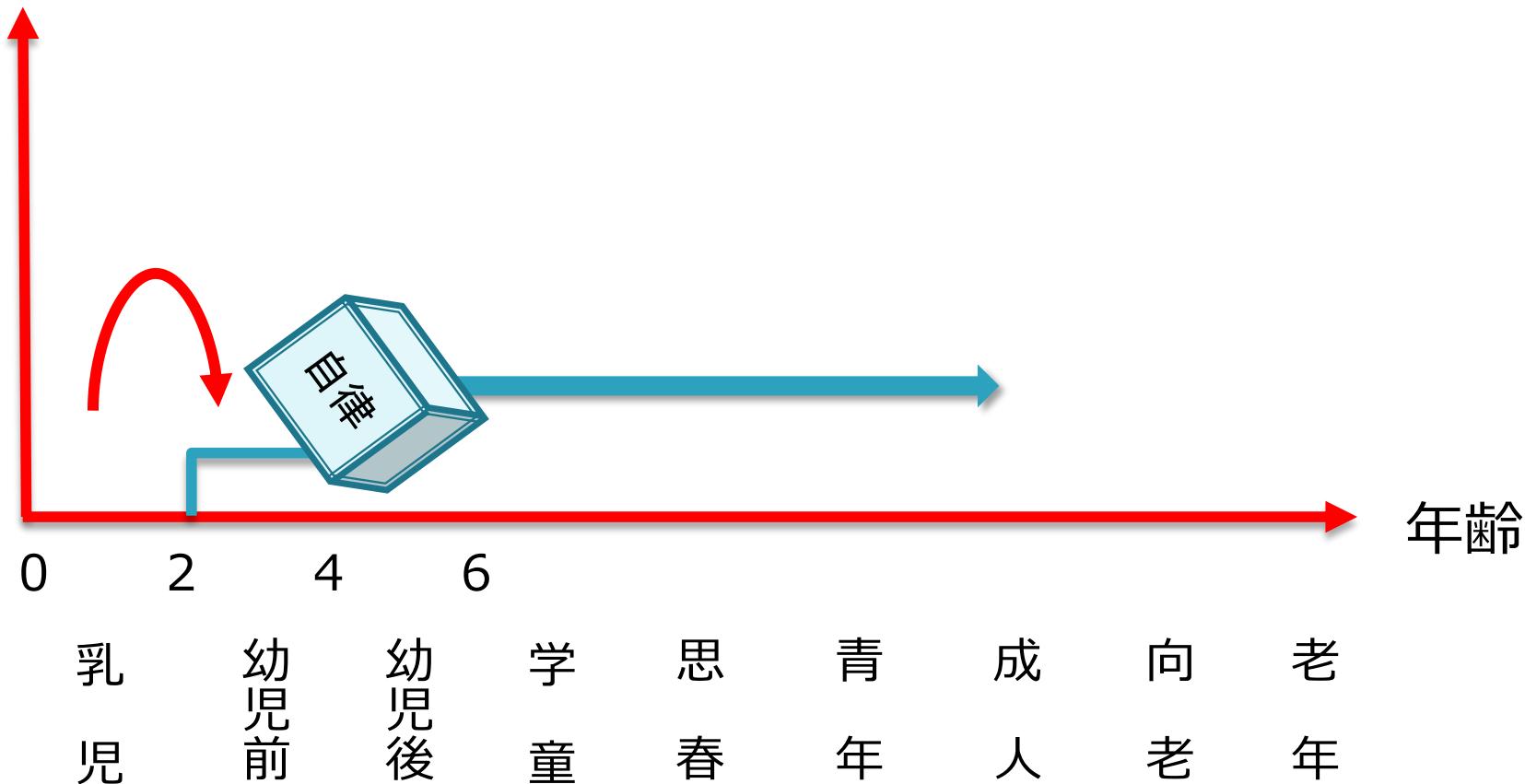
Table 1 社会性未熟の2タイプの特徴

社会性未熟	I型	II型
かかわり方	甘やかし	放任
	過保護	養育放棄
	先回り	無視
社会性	誤学習	未学習
具体例	箸が上手に持てない 犬食い 我慢できない タオル絞れない 返事や挨拶ができない わがまま 肥満	生活習慣形成不全 身辺処理の未完成 栄養不良（痩身） 不衛生

# 幼児期がクリアできていない人

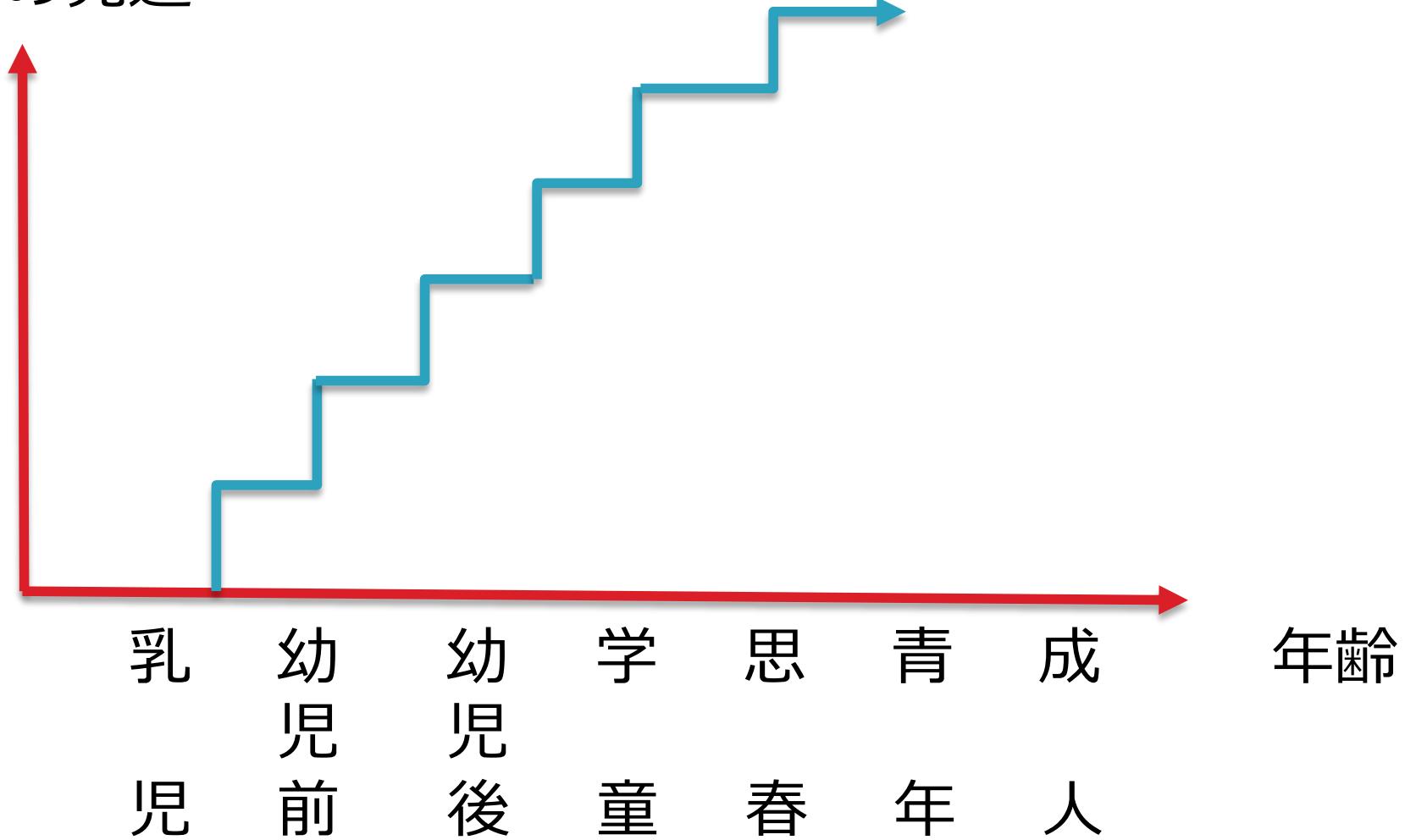
## 身体は大人、心は子ども

心の発達



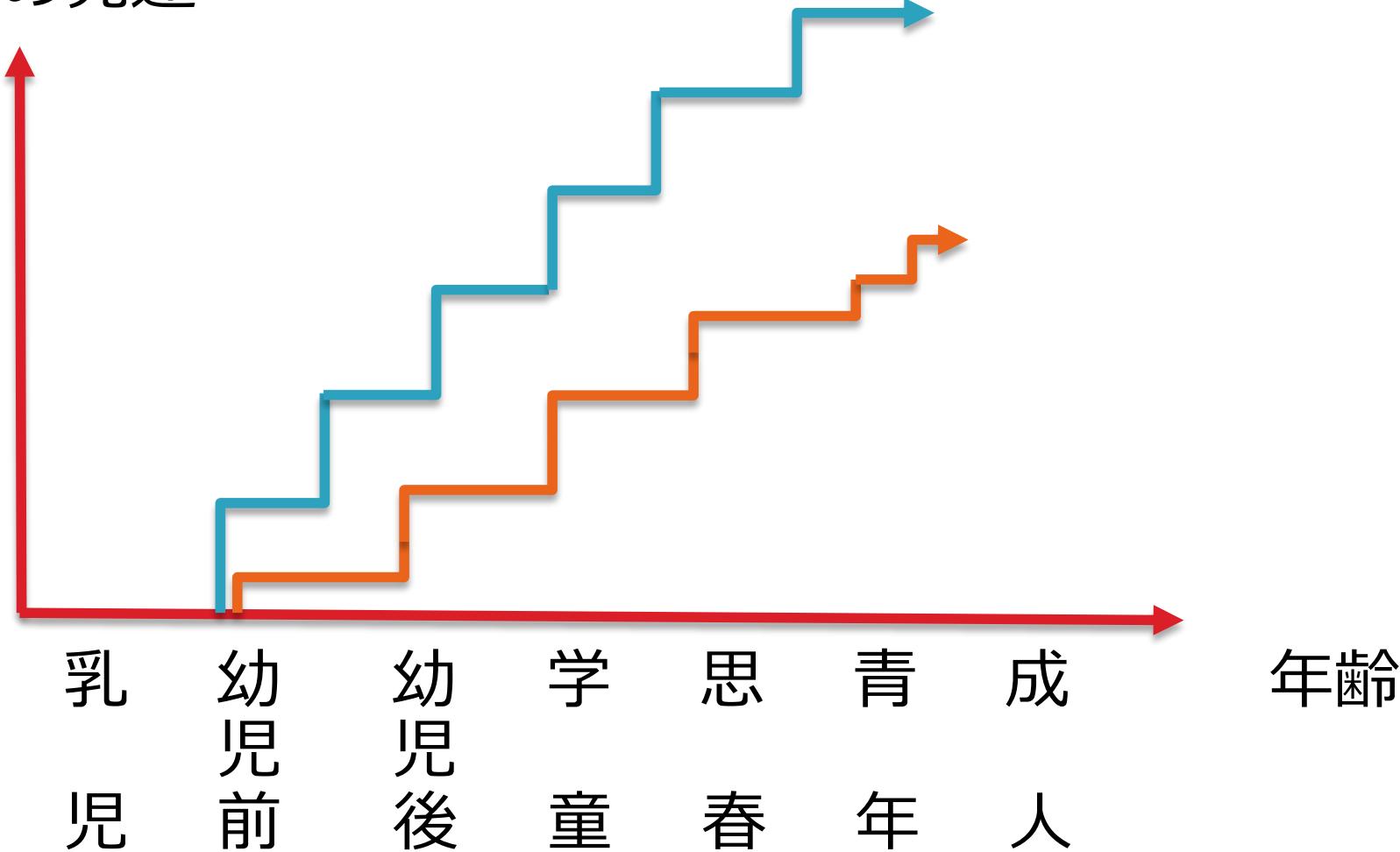
# 子どもの心の発達（定型）

心の発達



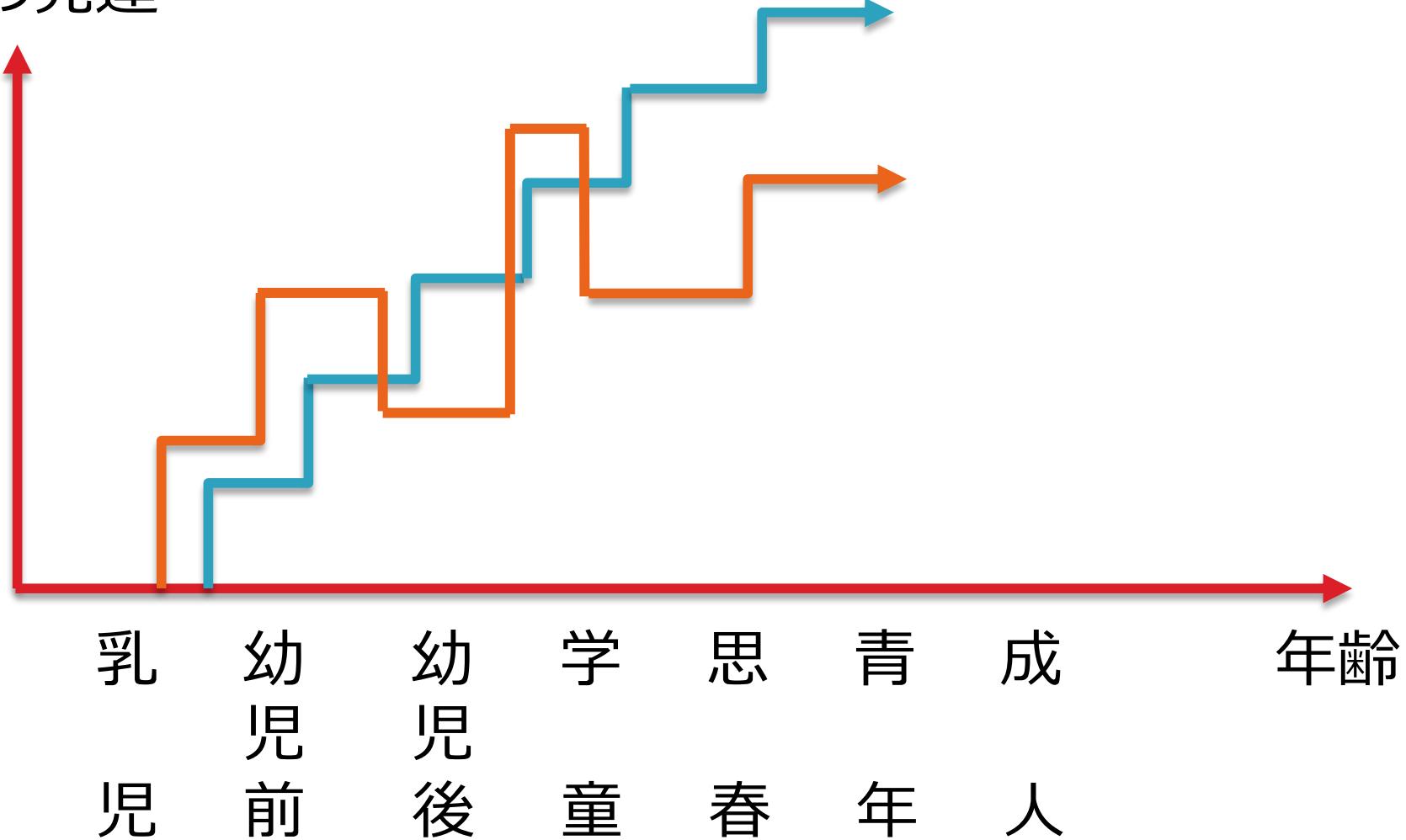
# 発達特性を持つ子ども（知的）

心の発達



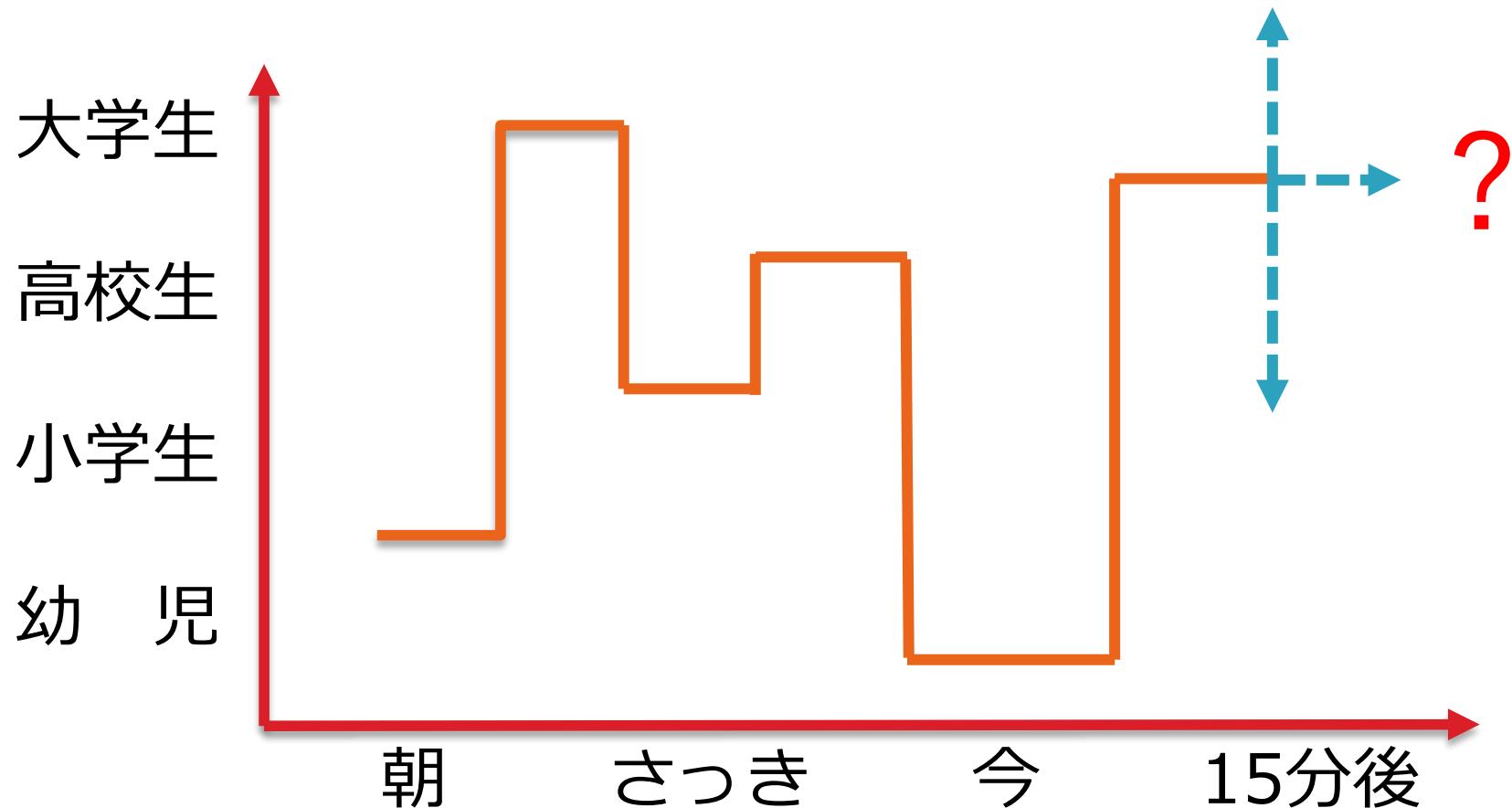
# 発達特性を持つ子ども（自閉）

心の発達



# 発達特性を持つ方（自閉）

心の状態



# 定型発達と発達障害の社会性学習の違い

## ▶ 定型発達児

日常生活と遊びの中で社会性を身につける

⇒ 程よい家庭環境と、十分な遊びの確保が大切

## ▶ 発達障害児

適切な訓練によってのみ社会性を身につける

# 発達障がい（発達特性）の文脈

## 定型発達と発達特性の違い

- ▶ 定型発達児

日常生活と遊びの中で社会性を身につける

⇒ 程よい家庭環境と、

十分な遊びの確保が大切

- ▶ 発達障がい児

適切な訓練によってのみ

社会性を身につける

# 定型発達の子は

痛みや、辛さを我がことのように  
直観的に感じる



**直観的心理化  
＝共感力**



# 発達特性を持つ子は

血が出てるから痛い  
泣いているから悲しい



命題的心理化  
=頭で理解する



# 定型発達と発達障がいの違い

## ▶ 定型発達児

日常生活と遊びの中で社会性を身につける

⇒ **直観的心理化**が可能だから

\* 生まれつき他者の心情を直観的に推測できる

# 定型発達と発達障がいの違い

## ▶ 発達障がい児

訓練によってのみ社会性を身につける

⇒ 直観的心理化が苦手だから

命題的心理化によって補う

言語的理由づけによって心情を理解

高い言語能力が求められる

⇒ 知的能力と言語学習が必要

# 関わり方の実際

## 【問題とは】

- ✓ 「やって」 といったことを 「やらない」
- ✓ 「やるな」 といったことを 「やる」

素人は

なぜ？  やる気がないからだ！  
わがままだからだ！

→ 「こころ」 のせいにする

# 関わり方の実際

## 【問題とは】

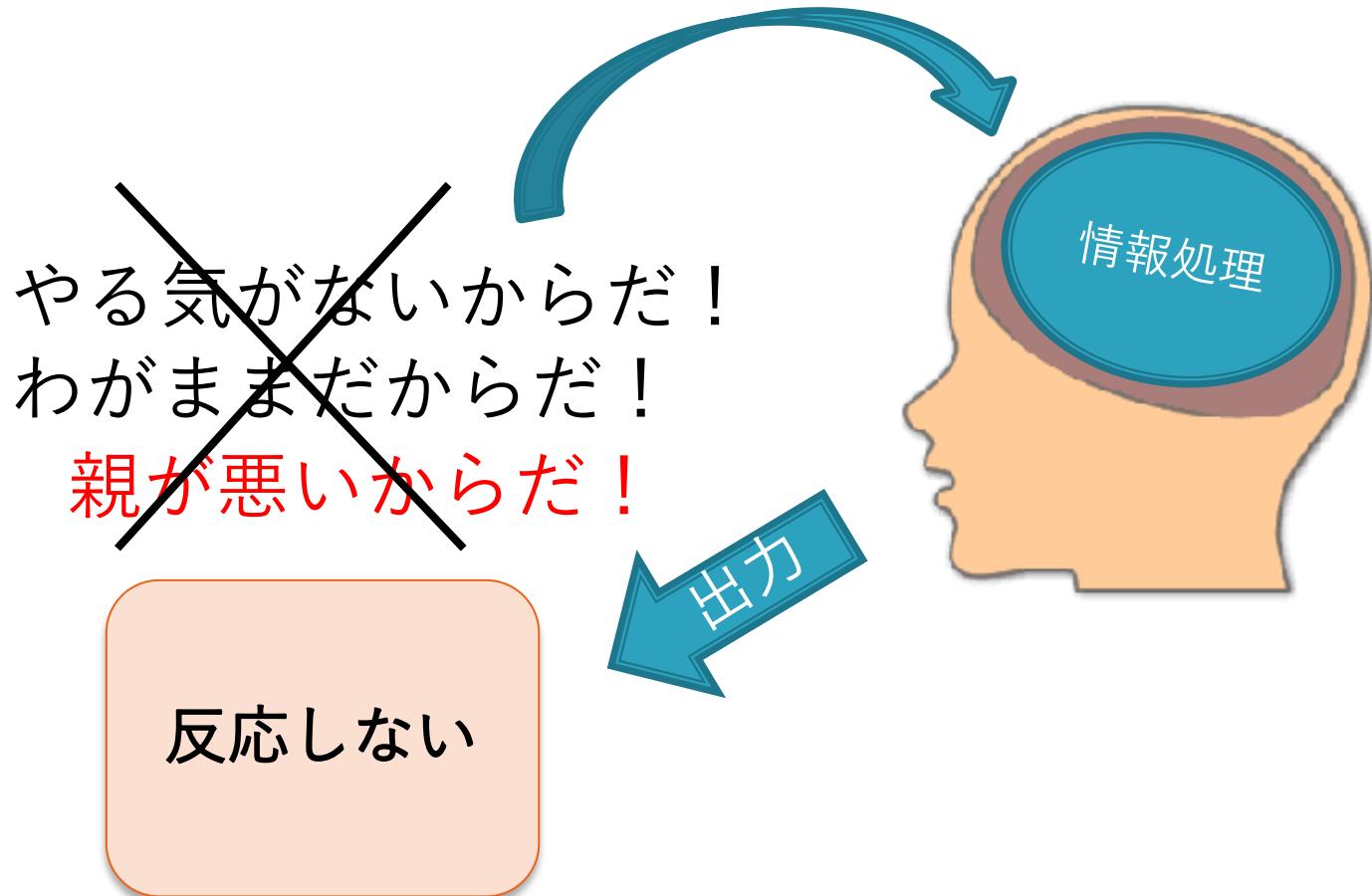
- ✓ 「やって」 といったことを 「やらない」
- ✓ 「やるな」 といったことを 「やる」

素人は

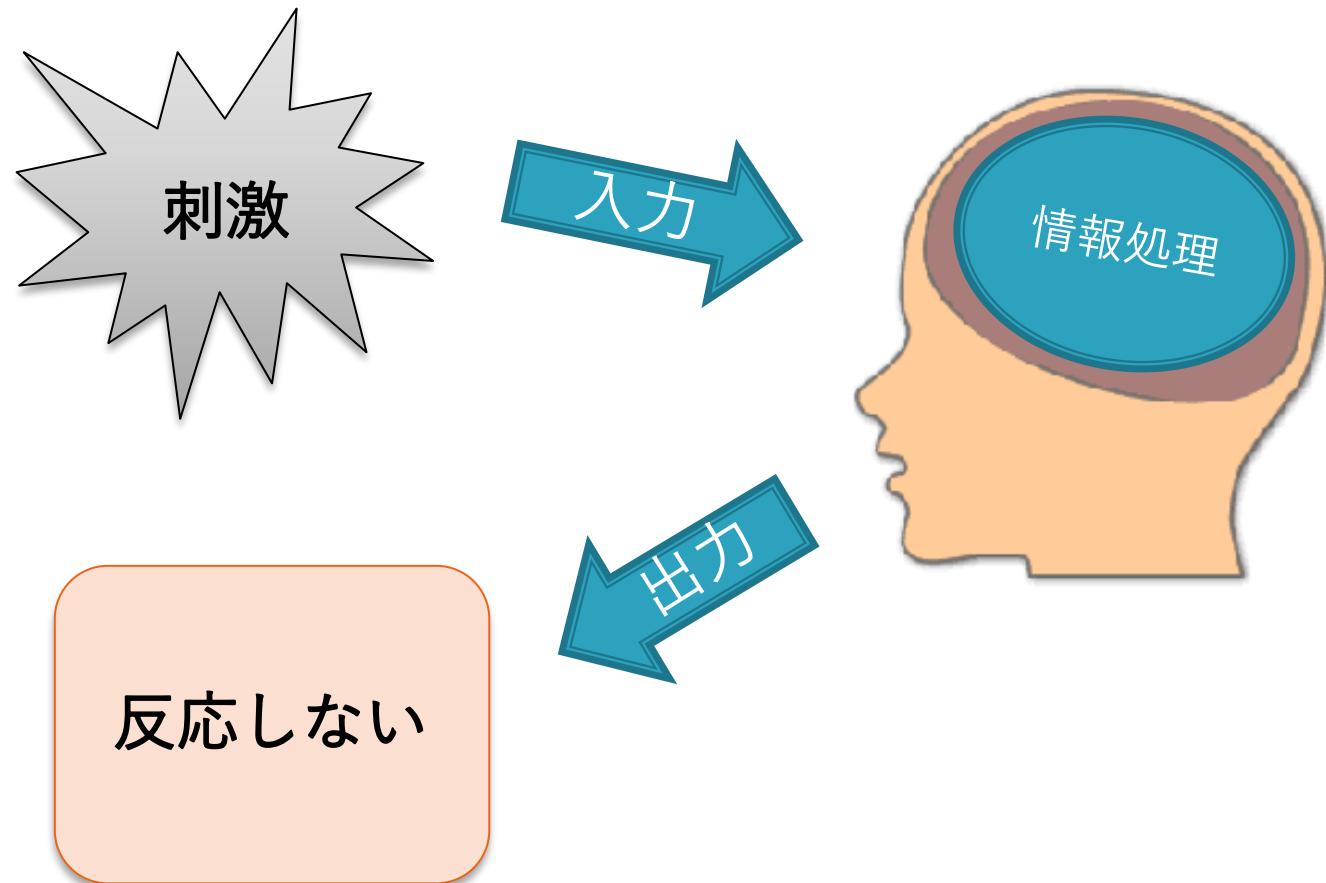
なぜ？  親の愛情が足りない！  
親のかかわり方が問題！

→ 「親」のせいにする

# 認知・行動理解の視点（認知過程）



# 認知・行動理解の視点（認知過程）



# 子どもが言うことを聞かない！

## <母の悩み>

「脱いだ服は洗濯籠に入れなさい」と厳しくしつけているのに、小6の弟はほとんどやらず頭痛のタネで、ついイライラして怒ってしまい、家の中がギスギスしている（ちなみに中2の姉は言うことをきく）

## <原因>

- ①男の子ってそういうもの？
- ②この子には障害がある？
- ③性格（心）が問題？
- ④親子関係、母のかかわり方の問題？
- ⑤「母さんに甘えたいのよ」って言われたけど？

# やりたくなるように環境を変えただけ

心は変わってない

楽しい（好きなこと）

結果がはっきりしてる（ゴールするかしないか）

分かり易い

→ 人を動かす心理学的法則に基づいている

⇒ 個別具体的に支援する

# 支援は、個別・具体的に

- ・相手の文脈に合わせた言葉掛けを
- ・文脈には、発達、文化、時代も関係する

# コミュニケーションとしての ほめ方 & 注意の仕方

① 子どもの良い行動を認める！

\* 本気でほめる

② どうやって上手にできたのかを  
教えてもらう

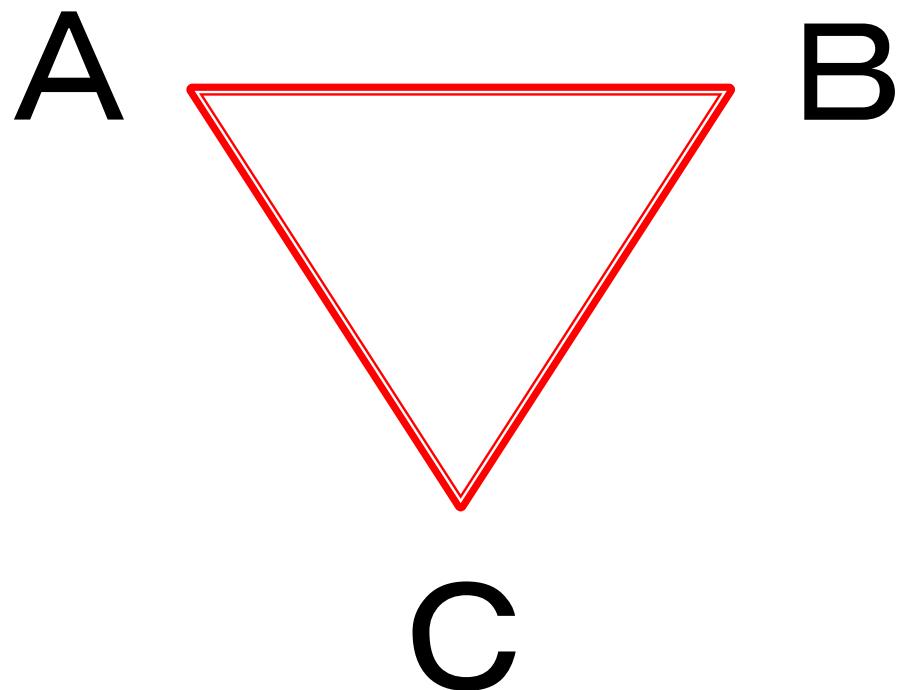
➡ 成功の責任追及

# 学習には、ご褒美が必要

周囲の適切な「ほめ方」がご褒美に

- ① スキンシップ（他人はやらない）
- ② 質問で
- ③ プロセスを
- ④ 噂で（魔法の三角形）
- ⑤ 感動を（3S+a）
- ⑥ 感謝を伝える

# 魔法の三角形



# 上手なほめ方（フィンランド式キッズ・スキル 秋山改定）

	褒める	方法	留意点
I	スキンシップ	肩トントン・背さすり	プライベートゾーンに注意 身内以外には使わない
II	質問で	教えてもらう	問い合わせない
III	プロセス	努力・工夫を	結果を評価しない
IV	噂で	そこにいない人を使う	逆に使うと関係を損なう
V	感動を伝える	3S(さすが・素晴らしい・すごい)	独り言のように言う
VI	感謝する	ありがとう	最高の褒め言葉

# 適切な「注意」の仕方

## 周囲の適切な「注意」で

- ① ことばで一発で制する
- ② 静かに理由を伝え諭す
- ③ ことばで注意する
- ④ 反省を促す（ポーカーフェイスで）
- ⑤ 責任を取らせる

# 適切な「注意」の仕方

周囲の適切な「注意」で

① ことばで一発で制する

- \* **自傷他害**の恐れがある場合のみ
- \* **暴力**を用いる必要はない

ありがとうございました。

